

Q6： 社会に開かれた教育課程の説明では「学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる」とあるが、どのようなことか。

A： 教育課程を教職員等の学校関係者だけが知っている（閉じた）ものとせず、社会（保護者・地域住民等）と共有していくことで、社会と連携・協働しながら学校の教育活動を充実させ、学校教育目標の実現を図っていくことである。

◇ 社会に開かれた教育課程の実現のために

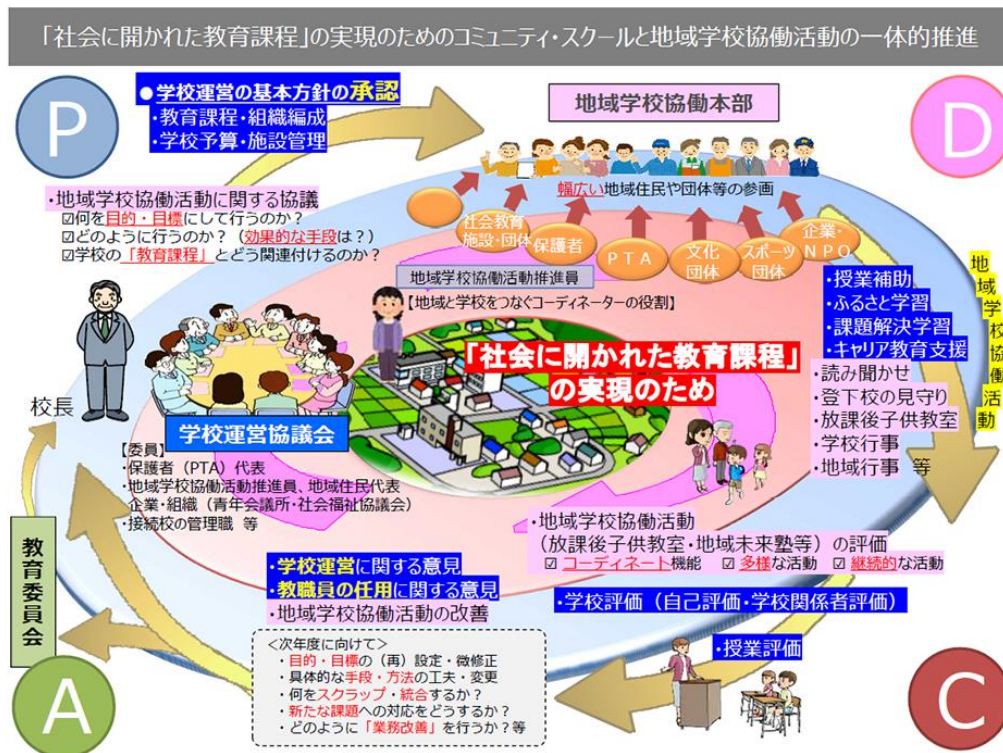
1 共有することの意義

教育課程（目標）の共有に当たっては、学校運営協議会、学校評議員会、保護者説明会、学校だより、ホームページなどの場や機会が考えられる。

特に学校運営協議会が設置されている学校（コミュニティ・スクール）では、教育課程の編成を含む校長が作成する基本方針の承認を行う権限を有するので、保護者や地域住民等の意見を学校運営に反映し、目指すところを対等な立場で共有することができる。

学校運営協議会が設置されていない場合でも、学校だけでなく、保護者や地域住民等も、子どもたちの教育の当事者としての責任をもつパートナーであるという認識を育んでいくことが大切である。

このように、対等な立場で教育課程（目標）が共有されることにより（P）、学校と地域が連携・協働した様々な教育活動（地域学校協働活動）が展開され（D）、これらの活動に対する評価を通して（C）、活動の改善や新たな目標の設定が行われる（A）という好循環（PDCAサイクル）が生まれる（下図参照）。これによって教育活動がより充実し、社会に開かれた教育課程の円滑な実現につながっていく。



2 連携・協働の充実

共有した目標の実現のためには、学校と地域が連携・協働した様々な活動を取り入れていくことが重要である。中教審答申（H28.12）「地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして」実現させるとあるように、学びの場や指導者を学校だけでなく、時には地域社会に求めることも考慮しながら活動の充実を図っていくことが望ましい。

(1) 人的・物的資源の活用

- ア 人的資源の活用例**
- 学校支援ボランティアによるもの
 - ・学習支援：読み聞かせ、各教科等への支援
 - ・環境支援：遊具の塗装、花壇・図書室の整備、HP作成、防犯パトロール 等
 - 企業や高等教育機関等との連携によるキャリア教育、出前授業 等
- イ 物的資源の活用例**
- 地域資源を生かした学習活動
 - ・文化財を活用した学習（校外学習含む）、職場体験、学校間交流 等
 - 社会教育施設の活用
 - ・公民館がもつ地域情報の活用、図書館・博物館等での調べ学習や体験学習
 - ・青少年教育施設等での体験学習 等

(学校と地域を結ぶ 地域連携教員の手引き書より一部改)

☆学校が進めておくとよいこと

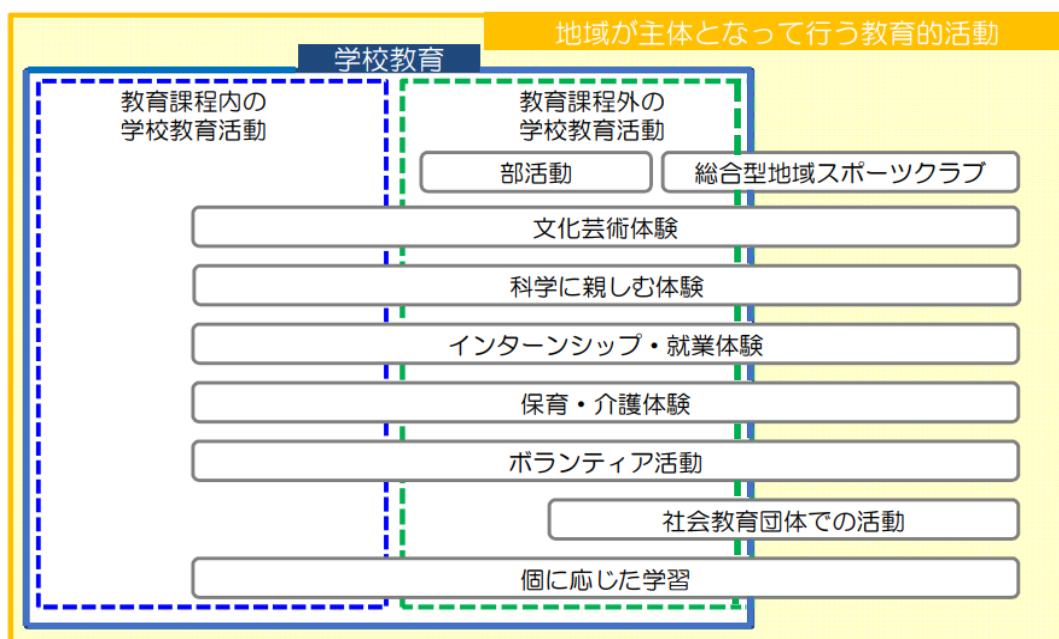
- ・地域コーディネーターとの連携体制整備（連絡方法・打合せ・調整等）
- ・地域連携教員を中心とした校内の地域連携チームの整備 など

(2) 放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携

(活動例)

放課後子ども教室※、地域イベントでのボランティア体験学習、地域での防災活動への参加、文化芸術体験、地域でのスポーツ活動、その他地域が主体となつて行う教育的活動（下図参照）

※すべての子どもを対象に平日の放課後や週末、夏休み等に、学校の余裕教室や体育館、公民館等において、地域住民等の参画を得て、多様な学習・体験プログラムを実施するもの



☆学校が進めておくとよいこと

- ・子どもたちが活動に参加しやすい環境整備（時間等の調整・理解促進等）
- ・地域の団体・組織（育成会、地域で子どもを育てる団体等）との連携 など

【参考資料】

- | | | |
|--|---------|----------|
| ・学校と地域でつくる学校の未来（HP） | | 文部科学省 |
| ・これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動 | R02. 3 | 文部科学省 |
| ・平成 29 年改定の小・中学校学習指導要領に関する Q&A（総則に関すること） | R01. 11 | 文部科学省 |
| ・地域連携教員のための手引き書 | H29. 3 | 栃木県教育委員会 |
| ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について | H28. 12 | 中央教育審議会 |
| ・教育課程内外の教育活動、家庭や地域社会との連携等に関する資料 | H28. 5 | 文部科学省 |
| ・地域とともにある学校づくり～学校支援ボランティアハンドブック～ | H28. 3 | 芳賀教育事務所 |